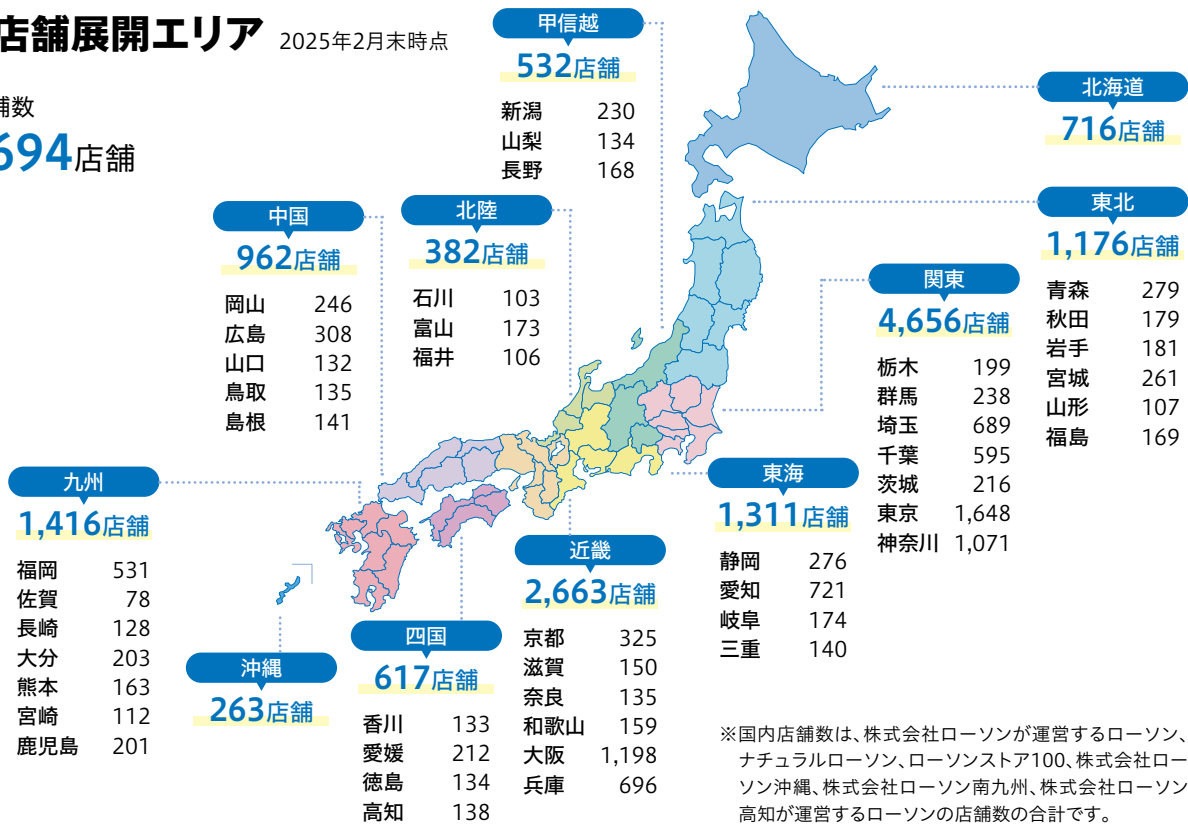


国内店舗展開エリア 2025年2月末時点

国内店舗数
14,694店舗



※国内店舗数は、株式会社ローソンが運営するローソン、ナチュラルローソン、ローソンストア100、株式会社ローソン沖縄、株式会社ローソン南九州、株式会社ローソン高知が運営するローソンの店舗数の合計です。

会社概要 2025年2月末時点

社名	株式会社ローソン	資本金	585億664万4千円
所在地	東京都品川区大崎一丁目11番2号 ゲートシティ大崎 イーストタワー	社員数	11,928人（連結）
代表者	代表取締役 社長 竹増 貞信	事業内容	コンビニエンスストア「ローソン」の フランチャイズチェーン展開
設立	1975年4月15日	全店舗売上高	2兆8,918億円（連結）

ローソンのサステナビリティへの取り組みを動画で紹介しています！

●ローソンのサステナビリティ

環境ビジョンや3つの約束「圧倒的な美味しさ」「人への優しさ」「地球（マチ）への優しさ」についてわかりやすく紹介しています。



●ローソンSDGsお仕事ツアー

小学生のお子さまにもわかりやすく伝えるように制作しました。アパターオペレーターのあおいさんが、ローソンのSDGsの取り組みについて紹介します。



動画はこちらから
ご覧いただけます



表紙上部には、実際にお客さまからローソンへいただいた声をもとに「お店で助かった・うれしかったシーン」の一部をイラストで表現しています。

株式会社ローソン

サステナビリティ推進室
〒141-8643
東京都品川区大崎一丁目11番2号
ゲートシティ大崎 イーストタワー
<https://www.lawson.co.jp/>

「SDGs ハンドブック2025」
に関する感想を
お待ちしております！

こちらから
アンケートに
ご協力ください



本冊子の
PDFファイルは
こちら



2025年9月発行 次回発行2026年10月予定
© 1975-2025 Lawson, Inc. All rights reserved.



LAWSON



ローソンは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています



SDGs HANDBOOK 2025



「ハッピー・ローソントウン」構想（イメージ）

お客さまの利便性をテックが支え、 リアルならではの温かみのある店へ

ローソンは、2025年6月に創業50周年を迎えました。1975年に大阪府豊中市に1号店をオープンしてからこの50年間で、マチの変化・ニーズに対応しながら進化し、今では国内に1万4,500店以上、海外に7,000店以上の店舗を展開するコンビニエンスストアとなりました。

そして現在「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」というグループ理念のもと、お客さまの日常生活で本当に必要とされる存在になるために、“リアル”店舗の利便性向上に加えて、“テクノロジー”の活用による「新しい便利」の実現に取り組んでいます。

例えば、次世代の発注システム「AI.CO」ではお客さまの需要に見合う品揃えや在庫量を導き出し、安心して便利なお買い物体験と効率的な店舗経営を可能にしています。併せて、AIが値引きを推奨し、食品ロスの削減に努めています。また、お店の商品在庫が即座に分かるシステムを導入し、デリバリーサービスの取扱商品を大幅に増やしています。

私たちローソンは「Real×Tech Convenience」を掲げ、「新しい便利」の創造と地域に密着したリアルならではの温かみのある接客といつでも欲しい商品のある売場を持続的に提供することで、お客さま満足度の向上を目指してまいります。

代表取締役 社長 兼 CSO※
竹増 貞信

※CSO=チーフ・サステナビリティ・オフィサー：最高サステナビリティ責任者

■「Real×Tech LAWSON」1号店として 2025年6月に「ローソン高輪ゲートウェイシティ店」がオープン



詳しくは
こちらを
チェック！



AIなどを活用したさまざまなサイネージや、店舗業務を支援するさまざまなロボット（飲料陳列、自動調理、自動掃除）を導入しています。

Contents

P1	Top Message／ローソンが目指す未来	P7	ローソンのSDGsとは	P15	人への優しさ
P3	マンガでわかる！ローソンとSDGs	P9	私のSDGsアクション	P17	地球（マチ）への優しさ
P5	ローソン50年のあゆみ	P11	「加盟店SDGs表彰」受賞店舗の取り組み	P21	グループ会社の取り組み
		P13	圧倒的な美味しさ		

グループ理念

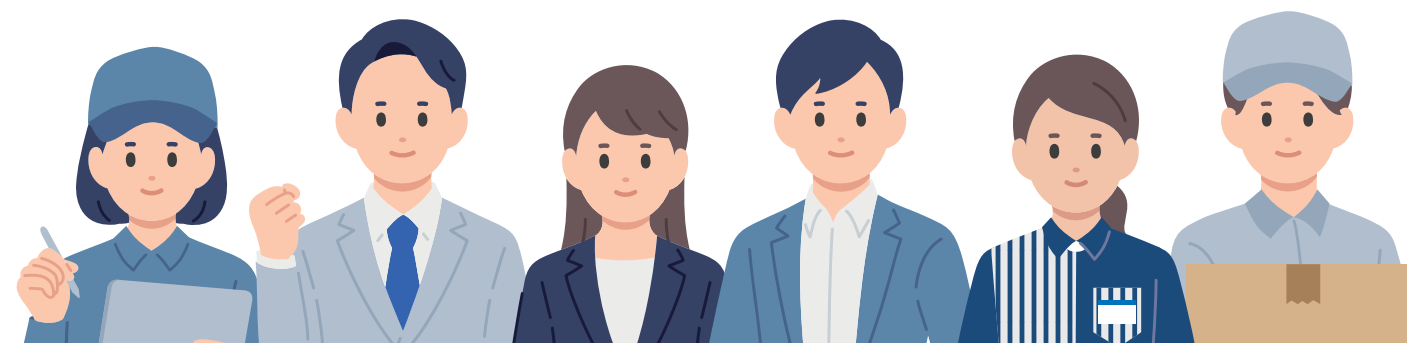
私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。

ビジョン

目指すは、マチの“ほっと”ステーション。

ローソンが目指す未来 「ハッピー・ローソントOWN」構想

表紙下部のイラストは、「ハッピー・ローソントOWN」構想として、ローソンが向き合う社会課題「地方創生」「少子高齢化」「医療介護」「SDGs」に向けた取り組みにより2030年に実現していきたいマチの姿（世界観）を、当社社員が描きました。



マンガでわかる！ ローソンと SDGs

タイムスリップで50年前のローソンへ

登場人物



**令和の
ローソクレー**
ローソン歴2年。
からあげクンはレッド派。



**昭和の
ローソンオーナー**
お惣菜の量り売りの達人。
ベテランなので大抵のこと
には動じない。

SDGsとは？

「SDGs」(持続可能な開発目標)は、2015年9月の
国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発
のための2030アジェンダ」に記載された国際目標です。
17のゴールと169のターゲットで構成されています。

2025年某日某所
ローソンにて…

おはよう
ございまーす！

この牛乳、
誰かからの
差し入れかな？

ありがたく
いただいちゃお！

TIME
SLIP!

うわああああ
どうして～!?

※瓶の牛乳は、現在販売していません。

ハッ!?
今のは一体…?

おはよう
ございます

あれ、もしかして
その姿…
ローソンの
初代制服?!

1975年の
ローソン1号店

私、もしかして50年前のローソンに
タイムスリップしちゃった～!?

なるほど、
君は未来から
来たんだね

わあ?!
誰?!

これは何ですか?

ああ、これね!
1975年にオープンした
ローソンの1号店では
お惣菜の量り売りをして
いるんだよ

そうみたいです…
気づいたらここに…

食品ロスやごみの削減につながっていて、
それって今でいうSDGsに向けた取り組みですね!

知っていましたか?

はじまりは牛乳屋「ローソン」

1939年米国オハイオ州のJ.J.ローソン氏の牛乳販売店が始まりです。
その後ローソンミルク社を設立し、マチのためにもっとこんなものが必要では?
というアイデアから日用品などの生活必需品も販売するようになり、
米国北東部を中心にチェーン展開を行っていました。

1939



50年でいろいろなチャレンジがあったのね～

1997年～

「トイレ開放宣言」から
いつでも気軽にトイレを
ご利用いただけるように

15 ページをチェック!

2025年～

食品ロス削減にも
つながる
冷凍おにぎり本格展開

17 ページをチェック!

2022年～

CO₂削減のため
冷蔵コーナーに
扉を設置(一部店舗)

17 ページをチェック!

2011年～

コーヒーは
レインフォレスト・
アライアンス認証農園産
コーヒー豆を使用した
淹れたてへ

18 ページをチェック!

2020年～

マイバッグの浸透で
レジ袋の
辞退率が上昇

一緒に
未来(2025年)に
行きませんか?

ぜひ
行ってみたいね

次のページで
ローソン50年の
歴史をチェック!

LAWSON 50th

おかげさまで、ローソンは 創業50周年を迎えました。

長い歴史の中で、SDGsの視点でも多くの活動に取り組んできました。
これからも「うれしい未来」を目指して、挑戦してまいります。

50
周年

詳しくは
こちらを
チェック！



さらに

ローソンは
2050年に向けて
目標を掲げています

Next

1975

1号店オープン

独自のフランチャイズシステムを
確立し、1号店となる「桜塚店」を
大阪府豊中市にオープン



1992

「ローソン緑の街基金」を
設立

「あゆみの箱」運動への参加を
きっかけに、全店舗への募金箱
設置を開始



1997

47都道府県への
出店を達成

コンビニ業界で最も早く全国
47都道府県への出店を達成

1997

トイレ開放宣言

いつでもトイレを利用したいと
いうお客さまの声を受け、コン
ビニ業界で初めてトイレを開放



1995

被災地域を
ローソンの灯りで支える

阪神・淡路大震災翌日、兵庫地区
で7割の店舗が営業を継続。ライ
フラインとしての機能を果たす

1986

「からあげクン」発売

大衆商品である
“とりのからあげ”
をローソン独自の
フライドフーズと
して販売



1998

Loppi全国導入

マルチメディア端末「Loppi」
導入により、オンラインチケッ
ト販売を日本初の全国展開



2011

「MACHI café」を
導入

レインフォレスト・アライアンス認証
農園産コーヒー豆を使用した店内
淹れたてコーヒーサービスを開始



店内調理サービス
「まちかど厨房」開始



2019

デリバリーサービス
導入スタート

弁当やおにぎり、からあげクンなどに
加え、日用品もお届け可能に



2025

「大阪・関西万博」
会場内に出店

創業の地である大阪府で開催された
「大阪・関西万博」会場内にカフェ店舗
とコンビニ店舗を出店



2010

ローソンファーム設立

ローソングループで販売する“安全・
安心”な野菜を提供



2022

聴覚障がい者に向けた
指差しシート設置

コンビニ業界で初めて、レジ袋や
カトラリー、レンジでの温めの
有無を指差しで確認できるシート
を導入



近未来型店舗
「グリーンローソン」
オープン

2024

AI.CO導入

セミオート発注を刷新した発注シス
テム(AI Customized Order/AI
Consultant)を導入開始



ローソンのSDGsとは

詳しくは
こちらを
チェック！



ローソン
3つの
約束

事業方針「3つの約束」をもとに、環境・社会・経済に対する影響が大きい課題を「重点課題」として選定しています。「重点課題」への対応を進めることでマチの“ほっと”ステーションの実現を目指し、SDGsの達成に貢献していきます。

グループ理念



ビジョン

目指すは、マチの
“ほっと”ステーション。

約束1
圧倒的な
美味しさ

商品・サービスにあって驚くような発見 >P13

重点
課題

1 安全・安心と社会・環境に配慮した
圧倒的な高付加価値商品・サービスの提供



約束2
人への
優しさ

キレイなお店づくりと気持ちのよい接客 >P15

重点
課題

2 商品や店舗を
通じて
すべての人の
健康増進を支援



3 働きやすく、
働きがいのある環境の
提供



4 子どもの成長と
女性・高齢者の
活躍への支援



私たちは
“みんなと暮らすマチ”を
幸せにします。

約束3
地球(マチ)への
優しさ

食品ロスやプラスチック使用量、
CO₂排出量の削減 >P17

重点
課題

5 社会インフラの
提供による
地域社会との共生



6 脱炭素社会への
持続可能な
環境保全活動



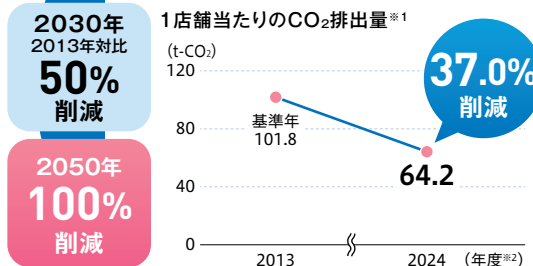
環境ビジョン

Lawson
Blue Challenge
2050！

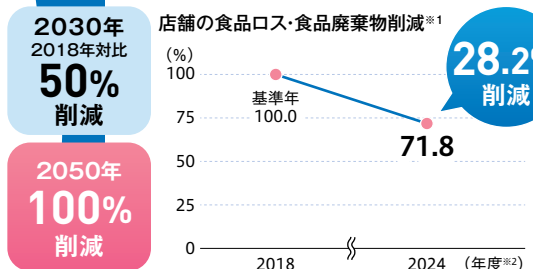
～“青い地球”を維持するために～

SDGsの目標年である2030年をターゲットに、社会・環境面に関わる目標(KPI)を策定し、達成に向けて取り組んでいます。さらに脱炭素社会を2050年に実現し、青く豊かな地球環境を未来につなげるために、長期的なゴールを目指してチャレンジを続けています。

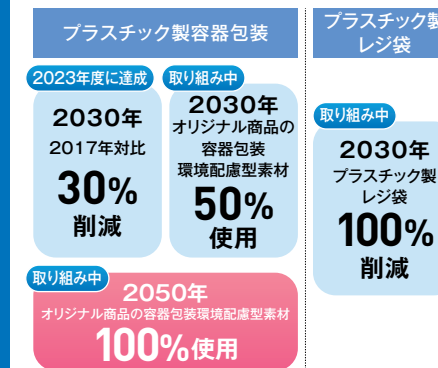
CO₂排出量削減目標



食品ロス削減目標



プラスチック使用量削減目標



聞いてください!

私のSDGsアクション

全国のローソン店舗で 働く店長さん・クルーさんの
未来につながるアクションをご紹介します!

松永 明恵さん

神奈川県西支店 伊勢原駅南店
リーダークルー

いつもマイボトルを持ち歩くことで、プラスチック削減に努めています。また、まちかど厨房作成時には、衛生管理に細心の注意を払い、おいしい商品をお客さまに届けられるように心がけています。

榎 詩乃さん

愛媛西支店 伊予砥部麻生店
クルー

過疎の進む地区にある施設や地域へお伺いして移動販売を行っています。お客さまとのコミュニケーションを通して、見守り活動や災害時支援などの地域貢献を目指しています。

今村 真莉さん

佐賀・久留米支店 久留米西町店
リーダークルー

近隣の高校の食堂が営業を終了し、昼食の用意に困っていると伺い、2024年から平日に高校内で移動販売を始めました。今後も地域や学生さんを笑顔にしていきたいです。

ラファカット・ゾハブさん

東京北支店 板橋赤塚新町一丁目店
サブリーダークルー

足の不自由なお客さまが毎朝来店される際に、お買い物カゴを持って店内を一緒にまわっています。どうしたらお客さまに喜んでいただけるかを考えて働いています。

大崎 貞雄さん

岐阜西支店 岐阜金園町十丁目店
クルー

店舗運営の基本原則「3つの徹底」の「お店とまちをキレイに」に共感し、7年前から店舗周辺のごみ拾いを実施。自治体と連携し、防災対策として地域への危険箇所の共有にも取り組んでいます。

鬼塚 丈一郎さん

埼玉東支店 春日部永沼店
店長

近隣の川にごみが多いことに気づき、団体と協力して毎年清掃活動をしています。

最寄りの店舗である当店の販売責任でもあると考えたことがきっかけです。今後も活動を継続して多様な生き物がすみことができる環境をつくりたいです。

「2024年度 加盟店SDGs表彰」受賞店舗の取り組み紹介

全国各地で「マチを幸せにする」ための取り組みを行っています！

グループ理念・事業方針「3つの約束」は、SDGsへの貢献であるとともにマチの幸せにつながります。全国各地のお店で取り組んでいる「マチを幸せにする活動」事例を募集し、2024年度も加盟店SDGs表彰を行いました。受賞した13件(16店舗)の取り組みをご紹介します。

道央支店
浦臼町店

受賞

高齢者施設への
定期移動販売



オーナー
平松 敬規さん

高齢化が進む地域での買い物難民を支援するため、週2回オーナーと店長が移動販売車で高齢者施設を訪問。主食や中食、常温商品、冷凍食品等も販売しています。直近では訪問場所も増え、お客さまからもご好評をいただいています。

茨城東支店
水戸内原町店

受賞

児童養護施設の
子どもたちへクリスマス



オーナー
照沼 伸一さん

未来ある子どもたちに何かしたいと考え、施設へクリスマスショートケーキを届ける活動を2022年に開始。2023年は市内の児童養護施設へ約180個を配達し、子どもたちの笑顔と感謝状を受け取りました。今後もこの活動を続け、賛同者を増やしていきたいです。

茨城西支店
守谷 松並庚塚店

受賞

茨城県収入証紙の
取り扱い



オーナー
横田 修さん

県内で収入証紙の販売所が少なく、特に店舗近隣での販売所がなく不便でした。お客さまの利便性を考え、さまざまな金種も揃えて取り扱いを開始。いつでも購入できることがお客さまに大変好評です。

茨城西支店
守谷大柏店

横浜東支店
磯子 二丁目店

受賞

毎日欠かさず、
近隣の公園を清掃



オーナー
河村 秀明さん

近くにある公園の清掃を、1990年2月以降、1日2回実施。公園にあるごみやペットボトルなどの回収を365日毎日実施しており、地元町内会の方に感謝されています。

静岡西支店
菊川 西方東店

受賞

高齢者の外出支援
「旅行同好会」の設立！



オーナー
戸塚 正さん

外出が難しい高齢者の声を聞き、旅行同好会を設立。年4～5回の小旅行を企画し、今まで40カ所以上訪れました。7年前からは移動販売も開始し買い物が困難な地域をサポートしています。今後も続けていきたいです。

岐阜西支店
岐阜 今川神明店

受賞

牛乳パック回収



オーナー
竹田 恭子さん

TV番組で「牛乳パック6枚で1ロールのトイレットペーパーができる」ことを知り、地域の資源回収に協力。捨てればごみになるものを活かすことによって環境保全にもつながります。

兵庫東支店
猪名川町 広根店

受賞

地域の皆さんとの
交流と社会体験活動！



オーナー
奥野 直貴さん

マネージャー
奥野 雅子さん

地域の中学校4校と連携し、社会体験活動を通じて食品ロスの知識を広めています。てまえどりやカトラリーの削減によりごみを減らすなどマチへの貢献についても伝えています。

広島西支店
Sこころホテル 草津店

受賞

障がい者の就労支援



オーナー
宮浦 勇さん

店舗運営の一環として、障がい者の就労を支援しています。品出しやレジ、揚げ物作成など個人の習得度に応じて業務を分担しています。ご本人のスキルアップと社会復帰を支援しています。

熊本西支店
熊本京町 二丁目店

受賞

障がい者が自信をもって
働けるお手伝い



オーナー
柳田 良誠さん

2年前から支援学校と連携し、障がいのある学生の職業体験を年4回受け入れ。卒業後、本人の希望で店舗に勤務する方もいます。全クルーのサポート体制を整え、失敗も受け入れてともに成長。ていねいな接客は大変好評で、今後も支援を続けていきます。

北九州東支店
門司西海岸 二丁目店

受賞

第11回ローソン杯争奪
門司少年ソフトボールオープン大会の開催



門司西海岸二丁目店
オーナー
古賀 宏和さん

門司東馬路店
オーナー
城戸 美由紀さん

門司港町店
オーナー
門司 聖さん

毎年12月に門司エリア3名のオーナーが協力し、少年ソフトボール大会を開催。11回目となり12チームの団体が参加。地域を越えたつながりが生まれ、子どもたちからもよい思い出ができた感謝されています。

北九州東支店
門司港町店

埼玉東支店
久喜青葉店

特別賞

障がい者(盲導犬)サポート



視覚障がいのお客さまが盲導犬と一緒に週1～2回来店。お買い物時は、みんなでサポートし、今ではイトインコーナーもご利用いただいています。誰もが利用しやすいお店づくりを目指しています。

北九州西支店
小嶺 インター店

特別賞

年1回、店舗駐車場で献血を実施



日本赤十字社と協力し、2021年から年1回店舗に献血バスを呼び取り組みを継続。2024年は48名(実施38名)が参加し、過去最多となりました。来年以降も継続していきたいです。

ローソン
3つの約束
——
約束1

圧倒的な 美味しさ



新プライベートブランド 「3つ星ローソン」

創業50周年を迎えた2025年に、プライベートブランドの刷新を行いました。今回の「3つ星ローソン」では、商品名の大きさや濃さ、パッケージカラーの識別のしやすさを検討し、アレルギー表示をパッケージ前面に記載するなど、おいしさはもちろん、見た目でも“わかりやすい”を意識しました。



価格据え置きで重量や具材を増量 「盛りすぎチャレンジ」

2023年2月から行っている「盛りすぎチャレンジ」では、価格据え置きで重量や具材などを増量したおにぎり、まちかど厨房、サンドイッチ、デザート、お菓子などを期間限定で発売しています。見た目のインパクトやお得感から多くのお客さまにご好評をいただいています。2025年6月には創業50周年を記念し、計41品を約50%増量して発売しました。



店炊きごはんを提供 「まちかど厨房」

店内の厨房スペースで調理を行う「まちかど厨房」は店炊きごはんのおいしさのさらなる追求として2022年から使用する米をこれまでの国産ブレンド米からエリア別に単一銘柄米に切り替えています(2025年6月時点)。現在の展開店舗数は厨房スペースをもつ小売店としては国内最大規模となる9,537店舗(2025年4月時点)となっています。店内で必要な分だけ調理することで食品ロスの削減にもつながっています。



ローソン店長
松山ケンイチさん

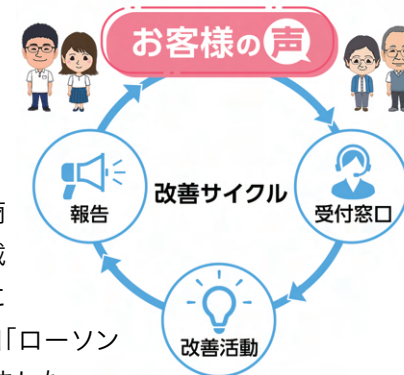
ローソンでハビロー！
「マチの“ほっと”ステーション」を実現するためのプロジェクト

もっと詳しく



お客さまの声を反映し、 商品やサービスを改善

マチのほっとステーションとして、お客さまとのつながりを大切にするため、商品やサービスの改善にお客さまの声を反映し、改善例をホームページに掲載しています。「食の安全・安心への取り組み」のページでは商品に関する疑問についてQ&A方式で掲載しています。また、お客さま向けのお問い合わせ窓口「ローソンカスタマーセンター」は、2022年から3年連続で「HDI 三つ星認証」を取得しました。



健康10テーマに沿った 健康配慮商品を展開

お客さまの健康意識の高まりにお応えするため、ローソンでは健康のために重要な10のテーマ(健康10テーマ)を掲げ、たんぱく質や食物繊維、糖質、食塩相当量などに配慮した商品開発を行っています。2001年から展開しているナチュラルローソンに加え、創業50周年を機に立ち上げた新ブランド「3つ星ローソン」でも、“健康”を当たり前に考えた商品づくりに取り組んでいます。



「健康」への
取り組みは
こちら



たんぱく質が摂れる
国産鶏むね肉のサラダ



ブランパン2個入〜乳酸菌入〜

Pick up

ローソンの看板商品「からあげクン」のこだわり

からあげクンは、1986年4月15日の発売以来、累計販売数が46億食を超えるローソンの看板商品です。お客さまに安全・安心、そしておいしい、からあげクンをお届けするために、国産若鶏のむね肉と国産の小麦粉を唐揚げ粉として使用しています。

工場見学動画
はこちら



からあげクンはさまざまなSDGsにつながっています

1個当たりの
たんぱく質量2.9g、糖質量1.5g※
※レギュラーの場合

健康への配慮



調理の際に使用した食用油は
家畜のエサや石けんにリサイクル

廃棄物の削減



国産若鶏のむね肉・
国産小麦粉100%使用※
※小麦粉製造時に同一ラインで外国産
小麦も使用しています。

輸送にかかる
CO₂排出量の削減



国内の工場徹底した
品質管理のもと製造

安全・安心



ローソン
3つの約束
——
約束2

人への 優しさ



「トイレ」を考える

機会を提供

ローソンは、1997年に日本のコンビニエンスストアチェーンで初めてトイレをお客さまに開放しました。2022年からは「トイレの日(11月10日)」及び「世界トイレデー(11月19日)」に合わせて数店舗でアートトイレを展開し、トイレについて考える機会をつくっています。また、武田薬品工業(株)と共同で、2023年は「世界IBDデー※(5月19日)」に合わせ、IBD患者さんのトイレの悩みに関する理解啓発を行いました。2024年はIBD患者さんのためのレシピを広く募集し、専門家監修の上、ウェブサイト公開しました。



※IBD(Inflammatory Bowel Disease): 腸を中心とする消化管粘膜に炎症が生じる疾患

障がいのある アーティストの作品を デザインしたティッシュボックス

多様な人々が活躍できる社会の実現を目指し、障がい者の活躍を応援するため、障がいのあるアーティストの作品を商品などに取り入れる取り組みを進めています。その取り組みの一つとして、2025年1月に広島市安佐南区の認定NPO法人「ひゅーるぼん」が運営する福祉施設「ぼんぼん」に通う3名のアーティストの皆さんによる作品をデザインしたティッシュボックスを全国のローソン店舗で期間限定で販売しました。



外国人クルーさんの 働きやすさを追求

店舗従業員の対応可能言語を示す「多言語バッジ」の導入やローソンクルー専用アプリに9カ国語対応のローソン用語集「Lawsonary」を掲載するなど、外国人クルーさんの働きやすさを追求しています。また、従業員をカスタマーハラスメントなどから守ることを目的として2024年8月に「ローソングループカスタマーハラスメントに対する基本方針」を策定しました。



員をカスタマーハラスメントなどから守ることを目的として2024年8月に「ローソングループカスタマーハラスメントに対する基本方針」を策定しました。



INTERVIEW インタビュー

多言語バッジ

店舗従業員のスキル活用による働きがい向上と、インバウンド需要の増加に伴うお客さまの利便性向上を目的に、従業員が話すことができる言語を表示する「多言語バッジ」を2024年8月から順次、希望店舗において導入しています。店舗従業員の出身国などを参考にして現在は14言語を表示できるようにしています。外国語が話せる日本人従業員の皆さんのモチベーションアップにもつながればと考えています。海外からのお客さまが多いお店からは「多言語バッジが

あることで、お客さまも安心してくださり助かっている」という声が届きました。コミュニケーションがしやすくなることにより、お客さまも従業員もうれしいひとときを過ごしていただきたいと考えています。

株式会社ローソン
マーケティング戦略本部

アシスタント
マネジャー
長岡 めぐみ



古川 優子

多様な人財が活躍する 職場環境や体制づくり

多様な人財が活躍する職場環境や体制づくりの一環で、LGBTQ+施策を導入しています。

2023年5月から社員の同性パートナーが家族として社宅に入居できる制度の導入や、LGBTQ相談窓口の設置などに取り組んでいます。取り組みが評価され、「PRIDE指標※」において2年連続で最高位「ゴールド」を受賞しました。義務教育でLGBTQについて子どもたちが学ぶ機会が増えていることから、2025年6月の「世界プライド月間」には、レインボーTシャツを着た当社公式キャラクター「あきこちゃん」のぬりえをウェブサイトに掲載しました。

※「一般社団法人work with Pride」が2016年に策定した、日本初の職場におけるLGBTQ+などのセクシュアル・マイノリティへの取り組みの評価指標



ぬりえについては
こちら



ローソン
3つの約束
約束3

地球(マチ)への 優しさ



CO₂削減に向けた取り組み

● 冷蔵・冷凍ショーケースへのガラス扉の設置

冷蔵・冷凍ショーケースへガラス扉を設置し冷気もれをなくすことで省エネを図り、CO₂排出量を削減する実験*を行っています。今後の新店の標準モデル化を目指すとともに、この実験で得られたノウハウを全国の店舗へ水平展開することで、さらなるCO₂削減を目指します。

※約90店舗で設置(2025年2月時点)



● 水素を燃料とした「燃料電池小型トラック(FCEV)」

トラックに搭載する水素と、大気中の酸素を化学反応させて「水」と「電気」が生まれます。化石燃料を使わず、電気ですトラックを走行させることができるため、CO₂削減につながります。福島県、東京都、福岡県の一部の車両で導入しています(2025年5月時点)。また、からあげクンなどを揚げた油から製造されたバイオディーゼル燃料を物流トラックに活用するなどの取り組みも進めています(熊本県や滋賀県の一部で実施)。



食品ロス削減の取り組み

● 冷凍おにぎりの販売

工場で製造し冷凍したおにぎりの販売を行っています。2023年に実験販売を開始し、2025年7月には約9,800店舗に拡大しました。



● 食材の有効活用

余剰食材を使用した「もったいない手巻寿司」を随時発売しています。また、2022年から、毎年年末には規格外品の原料を使用した「もったいないおせち」を発売しています。



● てまえどりの推進

消費者庁、農林水産省、環境省及び一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会と連携し「てまえどり」を推進しています。「てまえどり」は商品を購入後すぐに召し上がる予定のお客さまに、商品棚の手前にある商品から順番に取り購入いただくことで食品ロスの削減を目指す取り組みです。



プラスチック削減の取り組み

● MACHI caféのアイスメニューのカップの改良

2019年からカップを紙製に変更し、さらにストローを使用せずに飲めるふたに変更しています。2023年11月からはSサイズとMサイズのふたは、従来からプラスチック使用量を約0.4g削減したものに变更しました。



● ナチュラルローソン「ナチュラルウォーター」環境配慮型ラベルの採用

2025年6月からナチュラルローソン店舗では、ラベルをはがし忘れてもリサイクルプロセスを阻害しない設計のペットボトルと同系のラベルを使用した「ナチュラルウォーター」を販売しています。



● 箸袋を紙製に

2024年4月から東北・関東地区のローソン店舗、同年12月からナチュラルローソン店舗で、箸の袋をプラスチック製から紙製に変更しました。今後、展開エリアの拡大を検討しています。



紙製の箸袋

環境・社会に配慮した認証商品

「MACHI café」では、レインフォレスト・アライアンス認証農園産コーヒー豆を使用し、生産者や労働者の人権向上の支援に取り組んでいます。ブラジルのイパネマ農園では、森林再生プロジェクトを通じて生物多様性を促進。また、「まちかど厨房」の紙容器にはFSC®認証製品を、オリジナル飲料の一部の容器にはPEFC認証製品を使用しています。さらに、全国16カ所で「ローソンファーム」を展開し、GAP認証を取得した農産物を安定供給しています。



責任ある森林管理
のマーク



持続可能な森林管理
の促進



詳しくは ra.org/ja

FSC認証の紙を
使用した例



Pick up

大阪・関西万博での取り組み

創業50周年を迎えたローソンが、創業の地である大阪府で開催の「大阪・関西万博」会場内にコンビニ店舗とカフェ店舗を出店。特別商品の販売やSDGsに向けた取り組みを実施しました。

コンビニ店舗では、さまざまな国籍のお客さまに、より便利にご利用いただけるよう、アバターによる多言語接客を導入しました(約100言語に対応)。カフェ店舗のユニフォームのエプロンにはサトウキビの副産物を約30%配合した素材を使用しました。



マチの皆さんと創る「地域共生コンビニ」

近年、高齢化や人口の減少などでスーパーが撤退する地域が増え、食料品などの買い物に不便を感じる消費者が増えています。ローソンは、日常的に誰もが便利に楽しく買い物ができるよう、「地域共生コンビニ」として自治体や地元企業、地域の皆さん及び加盟店と連携し各地で取り組みを進めています。

なお、この「地域共生コンビニ」の取り組みは、経済産業省主催「買物困難者対策に資する新たな流通事業コンテスト」にて2025年2月に優秀賞を受賞しました。



北海道の出店例(ローソン上厚真店)



もっと詳しく

INTERVIEW
インタビュー

地域共生コンビニ

出店が難しい場所でどうすれば地域(マチ)の皆さんの役に立てるのか。まさに、グループ理念「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」を実現し、幸せを届けるために取り組んでいます。まずは自治体や地域の皆さんから各地区の課題を伺い、実店舗があるからこそできることを模索しています。その上で、商圏人口が少ないと見込まれる地域では、例えば少人数でも店舗を運営できるように時間帯別の客数見込みから時短店舗とすることもあります。

町長さんの公約にコンビニエンスストアを誘致するとしていた自治体もあるなど、地域共生コンビニを出店した

ことで、自治体や地元の皆さんから助かっているという声をいただきました。また、調味料の売上が他店に比べて高いことから、スーパーのように活用されていることがわかっています。

今後は、ローソンがさらにマチの拠点となるよう、事業を検討していきたいと考えています。

株式会社ローソン
開発本部
法人ビジネス部
部長

新沼 秀樹



地域共生コンビニ

苫小牧支店 ローソン上厚真店

買い物困難地域にできたピカピカのローソン



インタビューは
こちら



■ 店長 藤田 千愛さん ■ オーナー 井筒 耕平さん

和歌山北支店 ローソン龍神村西店

山奥の村にオープンして繁盛!「地域共生コンビニ」のやりがいとは?



インタビューは
こちら



株式会社ローソン 近畿カンパニー
大阪・和歌山開発部 大阪1エリア 主事 中嶋 将貴

※画像内に記載の所属は2025年1月当時のものです

募金活動による支援

2024年度募金総額

4億8,697万3,257円

●ローソングループ“マチの幸せ”募金

「子どもたちの未来のために」をコンセプトに社会貢献活動を行い、「ローソングループ“マチの幸せ”募金」では、現在2つの団体への寄付と活動の支援をしています。



もっと詳しく

●2024年度に実施した災害募金

・台湾東部沖地震災害支援募金 ・令和6年能登半島豪雨災害支援募金



もっと詳しく

うち「ローソングループ“マチの幸せ”募金」
4億1,787万247円



書店併設型店舗「LAWSONマチの本屋さん」

2000年代以降、書店数が減少し、書店の数が少ない、または書店が無い地域は増加傾向にあります。これを課題と捉え、「LAWSONマチの本屋さん」は、2021年6月に埼玉県に1号店をオープンしました。その後、店舗を拡大し、計16店舗を展開しています(2025年7月時点)。

通常のコンビニエンスストアの品揃えに加えて数千～約7,000タイトルの本・書籍を取り扱っています。



INTERVIEW
インタビュー

LAWSONマチの本屋さん

絵本などの児童書を大々的に展開している店舗では、特にファミリーのお客さまに「子どもと一緒に図鑑などを選べる」と重宝いただいています。シニアのお客さまからは、「読みたい本を取り寄せできることがうれしい」という声もいただきました。また、自治体と連携し、町長さんのおすすめや、地元の作家さんを応援するコーナーを設置している店舗もあり、地

域に合わせた演出をしています。

一方、書店は通常のコンビニエンスストアとは運用が異なるため、新店舗オープン前には、従業員の皆さんに陳列方法など書店に関する研修を行っています。「マチの本屋さん」が、新しいモデルとして皆さんに知っていたき、そして地域の文化インフラになりたいと考えています。

株式会社ローソン
エンタテインメントカンパニー
マーチャンダイザー

日下部 昇平



株式会社ローソン
エンタテインメントカンパニー
シニアマーチャンダイザー

高橋 伸明



防災啓発の取り組み

●ローリングストックの啓発

日常食べている食品を少し多めに買い置きし、賞味期限の古いものから消費し、食べたその分を買い足すことで日ごろから一定量の食品を備蓄する「ローリングストック」の啓発を行っています。



ローソンの
防災の取り組み
についてはこちら



●AIドローンを活用した実証

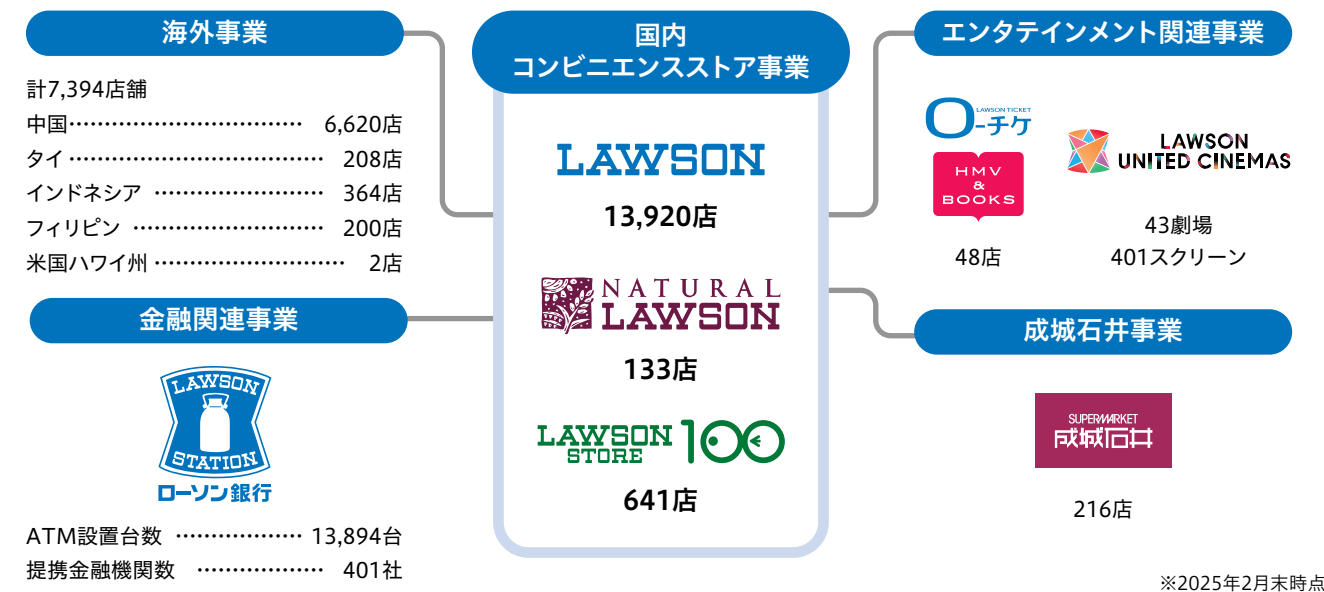
2024年12月に、石川県、石川県警察、KDDI株式会社と連携し、ローソン店舗の屋根に設置したAIドローンを使い、捜索や事故時の初動対応などの警察活動の高度化に向けた「地域防災コンビニ」の実証に成功しました。災害に強い地域づくりを通して石川県の「創造的復興」を目指します。



実証時の様子(ローソン七尾小島町店)

ローソングループ各社で SDGsに取り組んでいます

ローソングループ一丸となり、「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」というグループ理念のもと、社会やマチのためになるチャレンジを続けています。



羅森中国

AIカメラで機会ロスを可視化 廃棄総量を約25%削減

発注や陳列業務をサポートするAIカメラを中国瀋陽市のローソン全店で導入しています。売場を24時間確認し、機会ロスを可視化することで、2025年第一四半期は前年比で廃棄総量を約25%削減。売れ筋商品の発注を強化する一方で食品ロス削減につながりました。

成都市、深セン市でも実験導入し、今後さらにエリアを拡大する予定です。



Lawson Philippines



スプーンやフォークなどを 店内洗浄してリユース

フィリピンでは、店内飲食スペースを設置している店舗が多く、一部店舗ではスプーン、フォークなどをスタッフが店内で洗浄し再度提供することで、ごみの発生抑制に取り組んでいます。また、フィリピン国内ではプラスチック製レジ袋の配布が禁止されているため紙袋を配布しています。さらに2023年5月から、毎週水曜日は紙袋を配布せずマイバッグ持参を推奨するなど、ごみの削減に努めています。



ローソンエンタテインメント



ローソントラベルが仕掛ける オリジナルツアー

ローソンエンタテインメントが運営するローソントラベルでは、地方の鉄道会社の応援ツアーなど独自のツアーを企画・実施し、累計1,000人以上の方が参加されています。中でも、普段は立ち入れない未成線を特別開放し、土木学会遺産に選定されたトンネルや駅跡(五新線跡)を歩くツアーは、「タイムスリップした気分で、感動と発見の連続!」と好評です。2025年度は、11月29日(土)・30日(日)に開催予定です。



ローソン銀行



ユニバーサルデザイン視点を 取り入れた新型ATMを導入

「誰でも便利に使える」デザインを目指して開発した新型ATMを2024年から順次導入しています。車いすをご利用のお客さまにも利用しやすい設計、力の弱い方でも使いやすい杖置きやドリンクホルダーの素材・構造などを工夫しました。ユーザー検証にご協力いただいた(株)ミライロの垣内社長からは、「圧倒的な使いやすさに感動しました」とコメントをいただきました。



カラーユニバーサルデザイン認証を取得



ローソンストア100



弁当容器の プラスチック使用量削減

おかずが1種類だけの「だけ弁当」は、2021年に発売し、これまで13種類、累計625万食を販売し、好評をいただいています(2025年5月末時点)。ふたをラップで対応することでプラスチック削減につながっています。そのほか、2025年7月から順次、プラスチックを紙の容器に代替した弁当を販売しています。今後も弁当やパスタに紙容器を導入し、SDGsへの取り組みを進めていきます。



成城石井



ワインバーでの生ハムご注文につき 寄付を実施

成城石井が運営するワインバー「Le Bar à Vin 52 AZABU TOKYO」の各店舗での生ハムのご注文に対し、1食につき20円を寄付しています。これは開発途上国の学校給食1食分に相当し、世界の食の深刻な不均衡を解消するための取り組みとして実施しています。世界人口約80億人のうち、約8億人が飢餓や栄養失調の問題で苦しむ一方で、25億人近くが肥満など食に起因する生活習慣病をかかえているという課題の解決に貢献したいと考えています。

